

2024年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月10日

上場会社名 クオインタムソリューションズ株式会社 上場取引所 東
コード番号 2338 URL https://www.quantum-s.co.jp/
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)マーク ピンク
問合せ先責任者 (役職名)管理部長 (氏名)天神 雄一郎 (TEL)03(6910)0571
四半期報告書提出予定日 2023年7月10日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第1四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第1四半期	53	△11.2	△107	-	△65	-	△66	-
2023年2月期第1四半期	60	△0.1	△101	-	△15	-	16	-

(注) 包括利益 2024年2月期第1四半期 △103百万円 (-%) 2023年2月期第1四半期 △74百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第1四半期	△4.87	-
2023年2月期第1四半期	1.40	1.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第1四半期	402	372	64.9
2023年2月期	468	396	60.6

(参考) 自己資本 2024年2月期第1四半期 261百万円 2023年2月期 284百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年2月期	-	-	-	-	-
2024年2月期(予想)	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	140	117.8	△140	-	△140	-	△140	-	△10.37
通期	330	124.9	△210	-	△210	-	△210	-	△15.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年2月期1Q	13,666,131株	2023年2月期1Q	11,696,231株
2024年2月期1Q	38,527株	2023年2月期1Q	38,527株
2024年2月期1Q	13,549,082株	2023年2月期1Q	11,696,231株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、ロシアによるウクライナ侵攻や原材料等の価格上昇に伴うインフレ懸念等が残るものの、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に分類されたことに伴い、インバウンド需要をはじめとする消費の回復等、経済活動は正常化に向かうものと考えられます。

このような状況のもと、当社グループは、システムソリューション事業として、電気自動車（EV）事業に注力するとともに、アイラッシュケア事業として、アフターコロナにおける業績の回復に注力しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間につきましては、売上高53百万円（前年同期比11.2%減）、営業損失107百万円（前年同期は101百万円の営業損失）、経常損失65百万円（前年同期は15百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失66百万円（前年同期は16百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

(システムソリューション事業)

当事業におきましては、5G技術とAI技術を融合した関連事業として、電気自動車（EV）事業に注力してまいりました。2022年7月よりEV製造を開始し、同年9月より販売を開始しております。

しかしながら、製造台数及び販売台数は、生産の遅れ等に伴い、計画に比して少量にとどまっており、当第1四半期連結累計期間においては、売上がございました。また、販売管理費等のコストの見直しに努めました。

その結果、売上高は2百万円（前年同期売上高 無し）セグメント損失（営業損失）は36百万円となり、前年同四半期と比べ8百万円（前年同期△44百万円）の赤字改善となりました。

(アイラッシュケア事業)

当事業におきまして、サロンに関しましては、前期より見直しをはかっている定期的なディスカウント戦略により顧客への商品認知度の向上に努めました。また、オプションメニュー等のお勧めを促すことにより顧客単価が上昇しました。商材については、今年度は展示会の出店を行わずオンラインサイトのみでのキャンペーン企画を行い設営費や人件費の削減を行いました。その結果、売上高は51百万円（前年同期比14.5%減）となりましたが、サロンの人件費削減等の経費節減により、セグメント損失（営業損失）は2百万円となり、前年同四半期と比べ11百万円（前年同期△14百万円）の赤字改善となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて73百万円減少し、368百万円となりました。これは、主に現金及び預金が増加し、売掛金が26百万円、未収入金が112百万円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて7百万円増加し、33百万円となりました。これは、主に差入保証金が増加し、長期立替金が13百万円増加し、貸倒引当金の引当額が15百万円増加したことによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて65百万円減少し、402百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて48百万円減少し、23百万円となりました。これは、主に未払金が増加し、買掛金が減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6百万円増加し、6百万円となりました。これは、その他の固定負債が増加したことによります。この結果、総負債は、前連結会計年度末に比べて42百万円減少し、29百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて23百万円減少し、372百万円となりました。これは、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ40百万円増加した一方、利益剰余金が66百万円、為替換算調整勘定が37百万円減少したことなどによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月27日に公表した業績予想から修正はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	236,335	307,486
売掛金	45,034	18,381
商品及び製品	40,070	36,266
未収入金	112,198	21
その他	15,983	13,739
貸倒引当金	△7,368	△6,940
流動資産合計	442,254	368,955
固定資産		
投資その他の資産		
差入保証金	17,501	27,035
長期貸付金	25,000	25,000
長期立替金	611,405	624,946
その他	20	20
貸倒引当金	△627,480	△643,079
投資その他の資産合計	26,447	33,922
固定資産合計	26,447	33,922
資産合計	468,701	402,878
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,302	3,016
未払金	62,202	16,632
未払法人税等	2,856	735
預り金	2,466	1,955
その他	1,216	1,198
流動負債合計	72,044	23,538
固定負債		
その他	-	6,375
固定負債合計	-	6,375
負債合計	72,044	29,914

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,954,572	2,995,121
資本剰余金	2,537,386	2,577,936
利益剰余金	△5,017,813	△5,083,824
自己株式	△59,086	△59,086
株主資本合計	415,059	430,147
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△131,031	△168,693
その他の包括利益累計額合計	△131,031	△168,693
新株予約権	112,629	111,509
純資産合計	396,657	372,963
負債純資産合計	468,701	402,878

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年5月31日)
売上高	60,010	53,292
売上原価	10,410	10,256
売上総利益	49,599	43,036
販売費及び一般管理費	151,338	151,019
営業損失(△)	△101,739	△107,983
営業外収益		
受取利息	0	77
為替差益	89,935	44,774
助成金収入	2,891	—
貸倒引当金戻入額	—	634
その他	25	173
営業外収益合計	92,853	45,659
営業外費用		
支払利息	6,288	—
支払手数料	—	3,267
営業外費用合計	6,288	3,267
経常損失(△)	△15,174	△65,590
特別利益		
新株予約権戻入益	31,997	—
特別利益合計	31,997	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	16,822	△65,590
法人税、住民税及び事業税	550	420
法人税等合計	550	420
四半期純利益又は四半期純損失(△)	16,272	△66,011
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	16,272	△66,011

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	16,272	△66,011
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△53,096	—
為替換算調整勘定	△37,547	△37,661
その他の包括利益合計	△90,644	△37,661
四半期包括利益	△74,372	△103,673
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△74,372	△103,673
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として、引き続き電気自動車(EV)事業に注力してまいります。前連結会計年度に株式会社FOMMへの委託によりEVの製造・販売を開始いたしましたが、当初計画と実績に大きな乖離が生じました。当社グループはこの事実を真摯に受け止め、本事業を軌道に乗せるべく、事業計画の見直しに取り組んでまいります。また、2023年5月22日付プレスリリース「AI生成コンテンツ事業展開の可能性検討のお知らせ」にてお伝えした通り、AI生成コンテンツ(AIGC: Artificial Intelligence Generated Content)事業展開の可能性を検討するとともに、そのテクノロジーをEV事業に適用し、交通の安全性と効率性を向上させることを目指してまいります。

アイラッシュケア事業では、サロンにおきましては、新型コロナウイルス感染症が収束に向かう傾向にあり、サロン店舗ごとの売上や来客数が前期比プラスに転じました。しかし、稼働人員が減少していることから、採用活動の強化や、サロン店舗における体制作りを行います。また、一部のサロン従業員に新メニューの技術習得を実施し、新メニュー付加による顧客単価アップを目指し、状況に応じて、さらに新メニュー対応人員を増やしていく予定です。商材の販売については、売上が減少傾向にあるため、SNS等のフォロワー獲得のため、継続的な美容商品の使用方法に関する動画配信を行い商品の認知度の拡大を図ると共に、営業による販路拡大も図ってまいります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、新株予約権者や投資家の意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年5月31日)

1. 配当支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

1. 配当支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計

期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2023年4月25日付で、張玉珊（Cheung Yuk Shan Shirley）より第11回新株予約権の権利行使を受け、新株を発行いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ40百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,995百万円、資本剰余金が2,577百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	—	60,010	60,010	—	60,010	—	60,010
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	—	60,010	60,010	—	60,010	—	60,010
セグメント利益 又は損失(△)	△44,662	△14,523	△59,186	283	△58,903	△42,835	△101,739

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△42,835千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,000	51,292	53,292	—	53,292	—	53,292
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,000	51,292	53,292	—	53,292	—	53,292
セグメント利益 又は損失(△)	△36,376	△2,837	△39,214	△319	△39,534	△68,448	△107,983

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△68,448千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

当社は、2023年7月3日開催の取締役会において、シンガポール企業Compass Cloud Technology Pte. Ltd. との合弁会社として、コンパスクラウドAIジャパン株式会社を設立することを決議いたしました。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第1四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として、引き続き電気自動車（EV）事業に注力してまいります。前連結会計年度に株式会社FOMMへの委託によりEVの製造・販売を開始いたしましたが、当初計画と実績に大きな乖離が生じました。当社グループはこの事実を真摯に受け止め、本事業を軌道に乗せるべく、事業計画の見直しに取り組んでまいります。また、2023年5月22日付プレスリリース「AI生成コンテンツ事業展開の可能性検討のお知らせ」にてお伝えした通り、AI生成コンテンツ（AIGC: Artificial Intelligence Generated Content）事業展開の可能性を検討するとともに、そのテクノロジーをEV事業に適用し、交通の安全性と効率性を向上させることを目指してまいります。

アイラッシュケア事業では、サロンにおきましては、新型コロナウイルス感染症が収束に向かう傾向にあり、サロン店舗ごとの売上や来客数が前期比プラスに転じました。しかし、稼働人員が減少していることから、採用活動の強化や、サロン店舗における体制作りを行います。また、一部のサロン従業員に新メニューの技術習得を実施し、新メニュー付加による顧客単価アップを目指し、状況に応じて、さらに新メニュー対応人員を増やしていく予定です。商材の販売については、売上が減少傾向にあるため、SNS等のフォロワー獲得のため、継続的な美容商品の使用方法に関する動画配信を行い商品の認知度の拡大を図ると共に、営業による販路拡大も図ってまいります。

これら今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響による成果を負っており、新株予約権者や投資家の意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。